相談事例①　「学校に行けなくなってしまった」

●対象児童：小学校５年生　男子

小学校 3 年生の頃から学校を休むことが増え、5 年生になってからは 1 日も登校できなくなってしまっていた。友達とのトラブルで嫌な思いをしたこともあり、学校に足が向きにくくなってしまっていた。

●スクールカウンセラーの取り組みと児童の変化

5月 スクールカウンセラーとの相談を開始。相談室で本人の活動に寄り添う。	○まずは保護者と相談し、週に 1 回、スクールカウンセラーの来る曜日に相談室登校をすることになる。友達とのトラブルについて、嫌な気持ちになったことや怒った気持ちなどを話し出す。 ○自分の好きな活動（工作や運動など）を中心に、一緒に活動する。はじめは緊張していたが、少しずつ自分を表現できるようになる。 ○初めは校内での人目も気にしていたが、少しずつ相談室外での活動も出来るようになる。個別学習など、担任の先生と関わる日も出てくる。
⇩ 9月 他の曜日の様子も共有できるよう、日記帳を作る。相談室で他のお子さんと会う機会も作る。	○自主的に、他の曜日も保健室登校が出来るようになる。 ○学校であった出来事を一緒に振り返れるよう、簡単な日記をつける。日記帳を書くことで、今どれだけ通えているか目で見て実感できるようになる。 ○徐々に登校する日が増え、他の子ども達との接触をする機会を少しずつ設ける。同時にトラブルになることもあったが、その都度気持ちを話した。スクールカウンセラーからもよく頑張れていることを伝え励ます。
⇩ 2月 活動の様子を実際に見ながら、頑張れていることを伝える。	○ほぼ毎日別室登校できるようになる。自分が行きやすいものから徐々に授業に参加できるようになり、教室にも行く機会が増えた。 ○クラスの中で、スクールカウンセラーも様子を見守り、不安そうな場面では少し声をかけるなどした。 ○４月から、教室でみんなと一緒に授業を受けられるようになった。

●保護者のみなさま、学校の先生方へ

“何故だかよく分からないけど、学校に行けない”そんなお子さんはいませんか？

どんなに登校させようとしてみても、なかなか思うようにいかず、どうしたらいいか分からなくなってしまうことがあるかもしれません。「行きたいのに行けない」というのは、本人にとってはとても苦しいことです。同時に、関わる大人にとってもとても辛いことです。

このようなとき、学校での過ごし方は、決してひとつではありません。時には、教室以外の安心できる場所で一呼吸おいて、教室に入る準備を整えることも必要なのかもしれません。

スクールカウンセラーはこのように、学校でどんなサポートができるかを、みなさんと一緒に考えていきます。時には相談室も利用して、お子さんの居場所作りもします。

“どうしようもない”と家庭で抱え込まず、ぜひご相談ください。